自 己 評 価 表（令和4年度）

愛媛県立東温高等学校

学 校 番 号　26

教育方針	1 学科の特質と生徒の実態に即した特色のある教育を、地域との連携を保ちながら展開する。 2 自ら学び、自ら考える力を育て、一人一人に「確かな学び」を獲得させる教育を実践する。 3 公共の学びや体験活動に努め、広い視野を持って時代を拓く人間性、社会性の育成を図る。	重点目標	生きる力をはぐくみ、共に学び高めあう教育の推進 ―社会に貢献できる人間性豊かな生徒の育成を目指して―

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校全般	学校生活への支援	全ての生徒が楽しく有意義な学校生活を送っていると実感できるよう、あらゆる教育活動で支援に努める。	B	コロナ禍での学校生活が長引く中、教育活動の様々な場面で、工夫、改善を図り、より多くの生徒が意義を感じられるよう、全教職員で取り組むことができた。	生徒は様々な困難を抱えて学校生活を送っている。教職員間で共通理解を図り、生徒一人一人に応じた支援体制を更に充実させる必要である。
	教育課程の編成	生徒の多様な進路希望に応じた教育課程について検討を重ねるとともに、新学習指導要領の趣旨をふまえた、より効果的な教育課程の編成に努める。	A	1年生においては、新教育課程を円滑に導入することができた。また、2，3年においても、多様な進路希望に対応した教育課程を編成することができた。	新教育課程を定着させていくとともに、生徒の実態に合ったものになっているか検討していく必要がある。
学習指導	教科指導の充実	授業を重視した学習習慣を確立させるとともに、全ての生徒にとって、「わかる授業」を推進する。	B	ICTを活用した授業が日常的に行われるようになり、また、生徒に興味を持たせるための教材作成も進んでいる。一人一台端末の活用状況も概ね良好である。	生徒にとって「わかる授業」を推進するとともに、「力をつける授業」となっているかを検証しながら、授業改善を図る必要がある。
		家庭学習時間の確保や授業改善を目的としてICT活用を推進し、授業と家庭学習の連携と充実化を図る。	B	1年生と2年生の一部で導入した学習支援アプリを積極的に活用することで、家庭学習時間の確保の面において成果を上げることができた。	学習支援アプリの導入を進め、ICT活用を推進するとともに、学習活動が、より主体的なものになるように工夫することが必要である。
進路指導	進学指導の充実	基礎学力を定着させるとともに、各類型・コースの特性を生かし、自己の在り方や生き方を考えた高い目標を設定させ、自己実現に向けて粘り強く挑戦させる。	B	人文・理数・英語理解類型在籍の68名（77%）の生徒が大学入学共通テストを受け、学力のさらなる高みを目指した。その他の類型・商業科では、12月末時点で、進学希望者の96%が進学先を決定している。	生徒に高い目標を持たせ、自律した進路選択がなされるように、担任・学年団と連携を取り、各類型・コースに合った質の高い指導を行っていく。
	就職指導の充実	就職に必要な学力や人間性を養わせ、インターンシップや企業見学などへの積極的な参加を通して正しい職業観を身に付けさせるとともに、地域や社会に貢献できる人材を育成する。	A	企業見学を奨励し、早い段階から履歴者の作成や面接指導を充実させることができた結果、9月末で内定率が97%となった。12月末時点では学校推薦による内定率は100%となっている。	確かな職業観を持たせ、望ましい生活習慣の育成と学力の向上につなげる。また、生徒への情報提供を迅速に行い、主体的・積極的な就職活動をサポートする。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	心のこもった挨拶の励行、端正な身だしなみの徹底、SNS利用時のモラルの遵守、交通安全教育の推進について、継続的に粘り強く指導を行う。	C	SNSの適切な利用について、交通マナーの徹底については、まだまだ課題が多く改善が必要である。	どちらも目の届かない所で起きていることが多く、より一層生徒の現状の把握に努めることと、心を育てる啓発活動を粘り強く継続的に行っていく。
	生徒理解への取組	定期的に個人面談を実施し、生徒理解に努め、学年等での共通理解を図る。また、欠席が気になる生徒にはその都度、臨時家庭訪問を実施し、家庭との連絡を密にする。	A	学年主任が中心となり、欠席の状況や理由の把握に努めることができた。	今後も特に担任、学年団の先生方と連絡・情報交換を行い情報を共有していく。
特別活動	学校行事の充実	新型コロナウィルス感染症対策を施した実施方法が定着しつつあるが、さらにより良い方法を具現化していく。また、生徒会執行部を軸とし、生徒自らが主体的に参画できる学校行事の方法を確立していく。	A	生徒会執行部を中心にウイズコロナで実施できる方法を模索した。教師と生徒が共に知恵を出し、連携を取りながら感染症対策を施した学校行事が行われた。生徒が自主的に先導していく場面が増えたように思われる。	生徒会執行部を中心に、各専門員会の活動をさらに活性化したい。生徒が前面に出る機会をさらに増やし、生徒自身に改善をさせるよう支援したい。
	部活動の充実	新型コロナウィルス感染症対策を行った上で実施可能な在り方を工夫していく。生徒自らが主体的に活動できる機会を増やすとともに、高い目標を目指し人格の形成を目指していく。	B	ウイズコロナに移行してきた方向性の中で各大会も実施されるようになり、様々な大会に参加することができた。限られた時間の中で各部とも練習内容を工夫している。戦績については各部ともに後一歩の前進に期待したい。	挨拶、掃除など基本的なことを指導し、基礎的な力を育成したい。部活動顧問の先生方を支援していく体制づくりも整備していかなければならないと思われる。

人権教育	人権・同和教育の充実	人権・同和教育を推進して人権尊重の心を育み、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決を図っていくための実践力も養わせる。	B	コロナ禍で制限される活動もあったが、人権・同和教育ホームルーム活動をはじめとして、「人権を考える日」の実施や人権標語・ポスターの作成を通じて、人権尊重の意識が向上し、差別を許さない実践に対する意欲は高まった。	よりよい仲間づくりや人権・同和教育ホームルーム活動などにおいて、差別を許さない実践力をさらにどう高めていくかを来年度の課題として取り組んでいきたい。
道徳教育	道徳教育の充実	自律した個人として、また、社会の形成者として、必要な道徳的価値観を身に付け、有意義な人生を送れるように生徒の育成を図っていく。	C	昨年に引き続き、社会のルールやマナーを守ろうという生徒の意識は向上してきている。ただし、対人コミュニケーションにおいて、言葉遣いをもう少し改善すればよいと思われる場面も見られた。	これまでの取組の成果を生かし、生徒の道徳観念を涵養するとともに、相手のことを考慮した言動が十分できるように、人道的な実践力の育成を目指す。
安全教育	安全教育の充実	安全に関する意識や知識を高め、事件・事故に遭った際に適切に対応する能力を身に付けさせるとともに、学校や地域社会に貢献できる実践力を養わせる。	B	例年に準じて各行事を実施した。学校評価によると、保護者からは高評価をいただいたが、教員からの評価は昨年より下がった。改善の余地が多いと判断する。	避難訓練や講話の内容を見直し、実際に災害が起こった時に各自が動けるよう準備を整えたい。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	B	会議の精選を行い、教職員の多忙感の解消や時間の有効活用に努めた。今年度から7時間授業が行われる木曜日の清掃をカットし、授業終了時刻を20分早めた。	ノー残業デーが毎月１日設けられているが、名前だけである。その日は部活動を停止するなどして、心身をリフレッシュする時間を確保したい。また、書面会議の実施により、時間の有効活用を図っていく。
	職場環境の整備	毎月、衛生委員会を実施して、環境改善と教職員の健康増進に努める。また、健康講座や健康相談を定期的に実施することで、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	毎月の衛生委員会において気になる教職員の心身の状況について情報共有し、声かけを行っている。また、管理医が健康診断結果を確認して抽出した人と希望者に、管理医による個別健康相談を行った。	職場環境の改善に向けて、教職員から要望を募っているが、アンケートを実施して更に充実させたい。

※　評価は5段階　（A：十分な成果があった　B：かなりの成果があった　C：一応の成果があった　D：あまり成果がなかった　E：成果がなかった）とする。